

ハモニ広場

男女共同参画社会を目指して 2015 Vol. 68

Challenge Story!!
チャレンジストーリー

それぞれの男女共同参画

個人・団体・事業所の皆さんの
チャレンジストーリーをご紹介します。
それぞれの活動を参考に、皆さんも
新しいチャレンジを始めてみませんか。



人に役立つものを
デザインしていることは、
相手にとっても
自分にとってもいいこと

A-rue 藤井優子さん

個人の取り組み

チャレンジストーリー ① オシャレで機能的な 農ファッションを提案

東京から城里町に7年前に移住した藤井優子さんは、ファッションデザイナーです。自らエスニックブランドA-rue「アリユ」を立ち上げ、ネパールの工場と行き来して製品を販売しています。藤井さんが城里町で暮らし始めて生まれたのがロハス&農ファッションです。近くの道の駅で見つけた無農薬・有機栽培の野菜が気に入って、生産者さんが自宅の近くと知り、直接購入を相談。「その時に奥様から、長いアームカバーがあつたらいいんですけどないですか、と言われてエスニック衣料のサンプルの布で作ってさし上げたら好評でした」と藤井さん。次はエプロン、パンツと展開していきました。「農作業には興味があつたので手伝わせてもらっているうちに、こういう作業をするな

らば、こういう形の作業着なら楽なのにと思ふようになった」とのこと。生産者さんの話を聞いて、試作品を作り、実際にモニターしてもらって、ロハス&農ファッションは生まれました。メイドインジャパンが基本なので、価格的には高くなってしまうことから、小売りをせずに卸価格でインターネットのみで販売しています。

藤井さんは、「作業服の価値を評価して欲しい」という思いから、コンテストにも積極的に出品し、グッドデザイン賞や、いばらきデザインセレクションを受賞しています。「作業着のデザインはダイレクトで、本当に人のためにある服です。オシャレ以外の機能性を求められる部分でも評価してもらえるのが喜びです。これからもアイテムを増やして布製品については城里町の縫製工場で作りたいと考えています」と藤井さん。城里町から全国はもちろん、世界へとロハス&農ファッションを広げたいと取り組んでいます。



藤井さんがデザインした作業着

未来のなでしこを育てる
サッカー選手育成組織

小美玉フットボールアカデミーは、女子中学生を対象とした全寮制のサッカー選手養成組織です。29名(県内14名)の女子中学生が、県内はもちろん、北海道や兵庫県からも入寮し、地元中学校に通いながらサッカーを軸とした生活を送っています。アカデミーの発足は3年前、日本サッカー協会が運営しているJFAアカデミー以外では日本初の試みです。資金・人材・環境を整えるために、小美玉市、筑波大学、パートナー企業が

なでしこジャパンに入る選手を育てたい!



NPO 法人小美玉フットボールアカデミー
寮母兼コーチ 河原みのりさん スクールマスター 松下潤さん

小学1年生からサッカーをしています。将来はなでしこジャパンで活躍したいです。夢はワールドカップ出場です。

父がアカデミーを見つけてくれました。サッカーができることが楽しいです。目標はなでしこジャパンに入ることです。



内海きららさん(中2) 北海道出身(左)
山岸夢歩さん(中3) 長野県出身(右)

サポートしています。「選手が宿泊する寮は、ジョイフル本田の創業者である本田昌也氏が小美玉市に寄贈した元ご自宅をお借りし、練習場も小美玉市のナイター照明完備のグラウンドを使わせてもらっています。人材は筑波大学のOBや先生方、大学院生が協力してくれています」とスクールマスターの松下さん。

生徒の一日は、午前6時半までに起床しコンディショニングを確認、学校の用意をして朝食後に登校。下校後に寮で午後5時半まで学習。準備をして午後6時から8時頃までトレーニング、夕食後には再び学習の時間があります。松下さんと寮母兼コーチの河原さん、勉強をサポートする生

活担当スタッフ、管理栄養士、トレーナー、コーチが生活とサッカーの充実した日々を支えています。茨城県には、女子サッカーのチームが8チームあります。3年目を迎えた成果は、「チームとしては昨年2年目で茨城のチャンピオンになり、今年も連続してチャンピオンでした。関東大会では一回戦で敗退してしまっただけ、そういう意味ではまだまだです。でも個人では、関東選抜に今年が7人選ばれていますから、少しずつ確実に成果が出てきていると思います」と話す松下さん。河原さんは、「寮に入って3年目になる生徒たちは、入ってきたときよりもサッカーだけでなく生活の面でも、人と関わることで成長してきていると感じます」とのこと。

これからの目標は、「チームとしては関東大会で優勝して全国大会に出場すること。そして、なでしこジャパンに入るような女子サッカー選手を育てていきたいです」と松下さん。現在は中学3年生までですが、高校生になっても続けられるように、受け皿を準備していくことを検討しているということです。



インターネットと女性の力を活用した「スマートワーク・つくばスタイル」。

エデュケーションデザインラボは、新しい時代に必要
な教育と仕事をデザインする企業です。多岐にわた
る業務の中でも、「スマートワーク」が注目されていま
す。具体的には、自宅でインターネットを活用して仕
事をする「テレワーク」というスタイルです。エデュケー
ションデザインラボが仕事を受注し契約の主体にな
り、在宅ワーカーをトレーニングして仕事を発注しま
す。仕事の内容は、コンピュータではプログラミングでき
ない複数の条件に応じた柔軟な対応が求められ、単
純かつミスが許されない重要な業務の代行です。例え
ば研究データの入力や、サイトの構築・更新、テストの
採点、翻訳、集計などです。「仕事をしていただくの
は、つくば近隣に住んでいる女性を中心です。対面で
指示を出したり、何かあった時のためにも定期的に打
ち合わせをする」ということを大事にしています。I
Tを使っていますが、直接会わないと言えないこと

テーマは、
女性・コミュニティ・教育。
世の中に良い影響を与えたい



(株)エデュケーションデザインラボ
代表取締役 平塚知真子 さん



も、言わなくても会えば分
かるということもあります
から、そういうアナログな部
分とデジタルとを上手く組
み合わせて、得意不得意を
見極めて仕事を発注してい
ます」と代表の平塚さん。

現在スマートワーカーは
90人を超えています。エデュ
ケーションデザインラボ本体の社員は女性11人。10
人は出社勤務で、1人は夫の転勤のため現在はスカ
イプのテレビ電話で会議に参加し、テレワークで仕
事を行っています。産休・育休・介護休暇も完備し、
産休・育休をとって1年後に復帰した社員もいま
す。「私は、女性の働き方を変えたいと強く考えて
います。ITを活用することで、家庭を優先させな
がら自分らしく仕事ができる。そういうところで役
に立ちたいと思っています。また、出産などでプラン
クができて、在宅で一日30分でも仕事を継続でき
れば、次のステップに進みやすくなります」と話す
平塚さん。まずはつくばをモデルにして、全国各地
に広げていきたいということです。「今は時代の流れ
が速いので、常に学ばないと置いていかれます。もし
遅れをとったと感じても、これからでもやれば変
わっていきける、しかも仲間と一緒にいるという場をつ
くりたい。テクノロジーを味方につけて生き生き働
ける世の中になれば」と、目標に向かって邁進する
平塚さん。ITを活用することで、女性の新しい働
き方を提案している企業です。

男女共同参画 News

毎年、11月12日から
11月25日までは、
「女性に対する暴力を
なくす運動」期間です

11月25日は、
「女性に対する暴力撤廃国際日」です。

夫・パートナーからの暴力、性犯
罪、売買春、人身取引、セクシユア
ル・ハラスメント、ストーカー行為等、
女性に対する暴力は、女性の人權
を著しく侵害するものであり、決
して許されるものではありません。
この期間には、全国各地で女性に
対する暴力に関連した、さまざま
なイベントや研修会が開かれます。
この運動期間をきっかけに、女性に
対する暴力について考え、暴力のな
い社会づくりをすすみましょう。



女性に対する暴力根絶の
ためのシンボルマーク